

美濃陶磁歴史館だより



連続 うちんたあのお宝、なんやね？
コラム 第19回 開発と遺跡

土岐津町土岐口・中山1号窯跡

今秋に開業予定のイオンモール土岐を楽しみにしている方はきっと多いことでしょう。ですが、その開業予定地に古い窯跡があったことをご存じの方は少ないのではないのでしょうか。

その窯跡は、「中山1号窯跡」と名付けられています。室町時代（15世紀前半頃）に山茶碗を生産していた窯でした。山茶碗とは、無釉の素朴な器です。現在の美濃焼と同じように、誰もが気軽に使うことのできる焼き物でした。

平成27年から28年にかけて行った発掘調査では、窯本体だけでなく捨てられた薪の灰や失敗品の堆積の他、調査事例の少ない作業場と住居の跡も合わせて発見されました。これまで不明瞭だった当時の工房全体の様子を明らかにしてくれる重要な多くの情報を得ることができました。

窯そのものはいわゆる窰窯（あながま）ですが、少し後の戦国時代に登場する大窯に通じる構造を持つ特異な窯でした。大窯はどのように発明されたのか、この発見がその謎を解く糸口となるはずです。

中山1号窯跡は、名前に1号とあるとおり、周辺に複数の窯跡があったとされています。しかし、それらは中山鉾山による粘土採掘作業で既に失われていました。

昔の窯から鉾山へと姿を変え、そして今度は鉾山から商業施設に、人が生きていくためにはさまざまな開発行為が必要です。このような開発行為でやむを得ず失われる遺跡を可能な限り記録に残し、未来へと引き継いでいくために行われるのが発掘調査です。遺跡はご先祖さまの残したかけがえのない遺産です。記憶としてだけでも未来の子孫へ残し伝えていきたいですね。

▼中山1号窯（窯体）



▼中山1号窯で作られた山茶碗（碗と小皿）

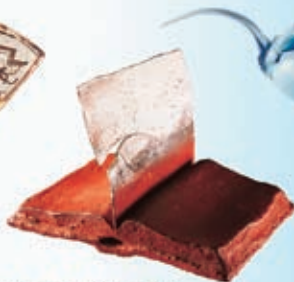


▼前庭部から発掘された最終焼成後の失敗品の堆積



企画展
のご案内

美濃陶磁歴史館
(☎ 051245)



現代のオブジェが
桃山の織部と
響き合う！

Revolution

2022年
5月21日(土)
8月7日(日)



土岐市美濃陶磁歴史館
Tohri City Historical Museum of Mino Ceramics